

7. 天上山山域

天上山(973m)は、広島市佐伯区湯来と安芸大田町筒賀の境に位置する奥深い山で、麓からは頂上を見ることができないが、秀麗な姿を持ち深い谷も多い。概ね北側は杉の植林であり、南側はミズナラ・アカマツや伐跡林となっており、山腹を天上山林道が巻いている。天上山をめぐる谷としては、南の水内川の各支流、東の念仏谷川、北の田之尻川と三谷川の支流、西の石ヶ谷川がある。かつては湯来と筒賀を結ぶ道が谷沿いに通じていたが、現在は荒廃している。地形的には古成岩と花崗岩で構成され、谷には滝やゴルジュが発達している。南面の水内川流域では、煤々井谷が初級者むけの沢登りコースとして知られており、倒木も少なく、淵や滝がまとまっている。大草谷は下部は滝は少ないが、詰めの枝沢には長いスラブ滝がある。滝谷川の左谷は、芸藩通志にも描かれた龍頭の滝が有名で、ナメの多いきれいな谷である。右谷には中流に落差 50mの大滝があり、迫力十分である。南面の谷は下山路として、登山道や林道を利用できる。東面の念仏谷川は右谷、左谷とも深いゴルジュの中に大滝をかけ、遡行価値が高いが、緩傾斜部の倒木に悩まされる。80 年代初頭までは右谷の登山記録があったが、現在は登山道が荒廃しており尾根筋は伐跡林の藪が酷いため、下山路を考える必要がある。北面の田之尻川の各支流は、流程は短いが中流部に手強い大滝やゴルジュを秘めている。残念ながら倒木が酷い。谷沿いの尾根には植林作業道があり、下山路に使える。三谷川源流は多くの滝があるが龍頭峡として観光地化されており、沢登りの対象とならない。石ヶ谷川と天上山の前衛峰である岩淵山、及び打尾谷左岸の山域は、別の章にまとめて記載する。

天上山 滝谷川左谷～右谷

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-4626079.html>

日程 2022 年 08 月 27 日(土) [日帰り]

アクセス利用交通機関 車・バイク 湯来方面からだと国道 433 号を新松原橋手前で左折し、林道天上滝谷線に入る。入口に落石のため通行止めの看板があり、最初の橋にゲートがあるので、橋の手前の何かの施設隣の空き地に駐車(3 台程度)。

コースタイム 日帰り 山行 5 時間 24 分 休憩 43 分 合計 6 時間 7 分

S 林道天上滝谷線の橋手前 09:20 09:36 龍頭の滝入口 09:57 左谷龍頭の滝 10:25 11:28 左谷二俣 11:38 12:53 右谷との中間尾根 12:58 13:22 右谷本流出会い 15:06 林道天上滝谷線 15:27 林道天上滝谷線の橋手前 G

コース状況／危険箇所等 滝谷川左谷の龍頭の滝探勝路の橋は壊れており危険。谷沿いの登山道も荒廃しており通行困難。左谷右沢には、植林作業道らしい踏み跡がある。右谷沿いの地形図の破線図の路は、残っている部分もあるが、滝の高巻き部分が荒廃しており危険。

その他周辺情報 国道 433 号に湯の山温泉

天上山につきあげる水内川支流滝谷川は、芸藩通志*に描かれ、「湯来滝めぐり」**でも紹介されている左谷の「龍頭の滝」が知られているが、探勝路は荒れている。また、古くは昭和 48 年刊、加藤武三「広島近郊の山と谷 緑の回廊」や 1980 年刊の「リュックかついで 広島山歩き」の天上山のガイドにあるように、林道天上滝谷線ができる以前、右谷及び左谷沿いに登山道があったようであるが、現在はほぼ廃道である。湯来に伝わる民話***では、水内川の戦いで源氏に破れた平氏が滝谷川を上流へと逃げ

落ち、谷底の岩盤に、馬の蹄跡、槍の跡、馬のたらいに似た凹み等が平家城とともに語り継がれたとある。左谷、右谷とも花崗岩が主体で時折青灰色の変成岩が混じる。植林の倒木がわずらわしい箇所もあるが、庭園のようにすばらしいナメが続き、ゴルジュは少ないものの幾つかの見ごたえのある大滝を有しており、遡行価値は高い。特に、右谷の 50m 大滝は壮観である。(写真は左谷の龍頭の滝と、右谷の 50m大滝)

☞ 龍頭の滝 F2 (16m)は右より高巻いて落ち口へ。龍頭の滝 2 段目 F3 (4m)は壊れた滝見の橋を渡り 3 段目 F4 (4m)へ出て、右岸を巻く踏み跡をたどる。

☞ 根無滝 F11 (10m)は、傾斜がそれほどなく、左より巻ける。

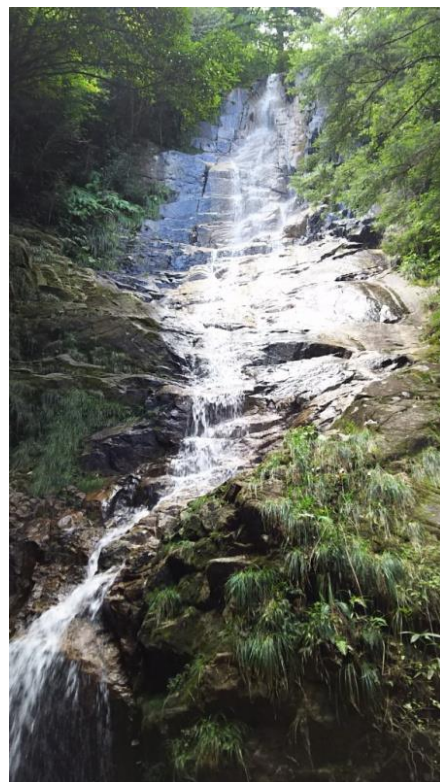
☞ 右谷 3 段 40m F8 は左岸に巻き道があるがクライムダウンできた。

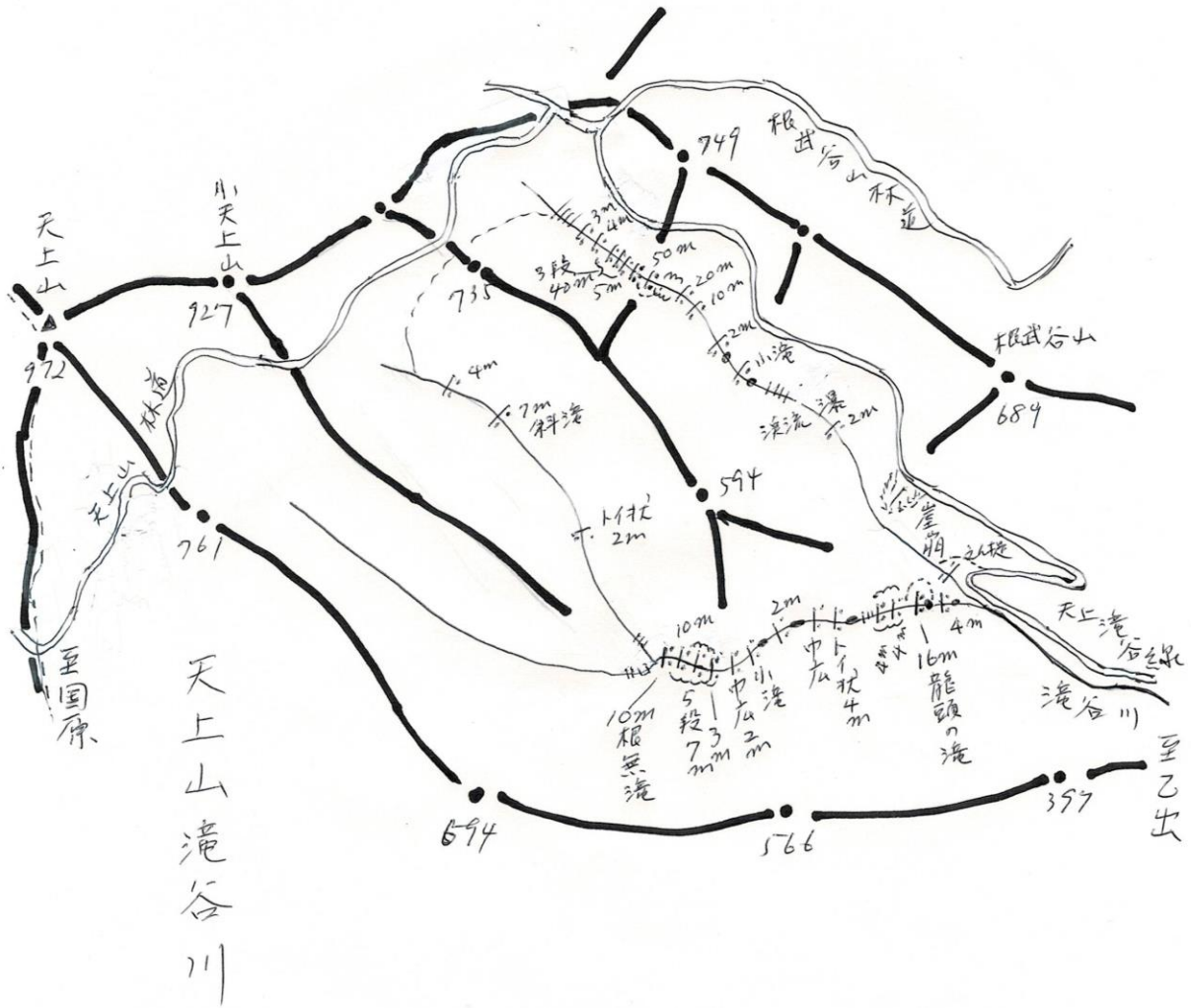
☞ 右谷 F6 (50m)の大滝は右岸の悪い巻き道をトラバースし、ガリーを滝下に降りる。

* <https://livedoor.blogimg.jp/tombosou/imgs/9/4/94d55c0a.jpg>

** <http://www.hint.or.jp/~yuki/hanro/yuki taki/takitop.htm>

***<https://blog.goo.ne.jp/hiroshima-yuki/e/3fec4302fa71c6c6f4f26151dc18852b>





天上山 念仏谷川右谷～左谷

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-4649011.html>

日程 2022年09月04日(日) [日帰り]

アクセス利用交通機関 車・バイク 湯来方面からだと国道433号線を大前橋手前で左折し、太田川右岸沿いの一車線の県道に入り、念仏谷橋手前の路肩に駐車(2台)。念仏谷橋の北詰を西に入るとヤマメ釣り場と民家が数軒あり、その間を登っていくと谷沿いの道があり、右谷にかかる橋を渡ってから入渓。なお、県道は念仏谷橋より北は落石の注意警告あり。

コースタイム 日帰り 山行 6時間30分 休憩 0分 合計 6時間30分

S 念仏谷橋 09:14 11:40 右谷第一堰堤 13:15 中間尾根 13:30 左谷本流 15:44 念仏谷橋 G

コース状況／危険箇所等 念仏谷右谷沿いの登山道は、木馬道名残の石垣が残っている部分もあるが、ほぼ消滅している。尾根筋も藪が酷く、従って、遡行後に駐車地に戻るルートは考える必要がある。今回は右谷の堰堤手前から南の尾根に上がったが、失敗だった。堰堤を越えて林道天上滝谷線に上がれば、楽だったかも知れない。そのまま辿れば湯来松原に下することもできる。

その他周辺情報 国道433号線沿いに湯の山温泉

念仏谷(ねぶだに)川は天上山の東山麓を源とし、安芸太田町坪野付近で太田川にそそいでおり、広島市佐伯区湯来との境界になっている。天上山は奥深い山だが、今は林道天上滝谷線が稜線を横切ってしまった。1980年刊の「リュックかついで 広島山の山歩き」の天上山のガイドでは、念仏谷から天上山への登山道はほぼ消滅しているとある。また、広島山稜会誌「峠」創立35周年特集号の昭和58年(1983年)の記録では、念仏谷の下流部における核心部には、断崖に囲まれて落差20メートルの滝を初めとして、大きい滝が3つある。地元の人が一番目のそれを「リュウズ」と呼ぶが、他の呼称はないと言う。との記述がある。右谷では2番目の滝が迫力があるが、中流部には地図にない堰堤があり、そこで遡行を打ち切り、南側斜面の酷い藪を漕いで中間尾根にあがり、左谷を下降した。できれば、根武谷山689mに登頂したかったが、尾根の藪が酷くて断念した。左谷は1/2.5万図では最下部の合流点付近が等高線が詰まっているものの、上部はそれほどでもないと思っていたのだが、降りてびっくり、大滝4つを含む滝場が続くトンデモ谷であった。右谷、左谷とも緩傾斜部での流倒木が煩わしいのが残念であるが、滝の遡下行は、かなり悪く、特に左谷の遡行価値は高いと思われる。ただし、登山道がないので下降路をどう取るかが問題になる。谷をくだる場合は懸垂が必要になるだろう。右谷は堰堤上部は確認していないが、地図上では谷が広がり傾斜も緩くなっていることから悪場はないと思われ(「峠」の記録にもそのように書かれている)、詰めれば稜線の根武谷山林道から天上滝谷線に出る。(写真は、右谷大龍頭20mと左谷30m大滝)

☞ 右谷の「リュウズ」20mは右岸に巻き道がある。

☞ 右谷のゴルジュを割る20mは、チョックストーンは左から、20mは下段まで登り、そこから灌木交じりの右壁に取り付き小さく巻くと、落ち口に出る。

☞ 左谷本流奥の30mは、懸垂20mで中段まで降り、下段7mは、枝沢側からクライムダウン。

☞ 2条17mは、右岸より小さく悪い巻きで降りる。

☞ 格好良い15mは、右岸の木を支点に使って懸垂下降した。

☞ 最後に迫力ある30m大滝は右岸より悪い巻き降り。

(追記)念仏谷では、広島県の準絶滅危惧種であるクラガリシダ(着生)の自生*が確認されている。

* <https://www.city.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/45549.pdf>

根武谷山は国有林であり、植林内の道はその作業道だったようで、中間尾根の手前で終わっている**。

また、右谷上部には平成30年～令和5年伐採計画***があるようだ。

**https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/keikaku/shinrin_keikaku/system_summary/hirosima/pdf_zumenn/ohtagawa12-3.pdf

***https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/keikaku/shinrin_keikaku/planning_point/attach/pdf/31-5-4.pdf

芸藩通志の佐伯郡下村の絵図****には、念仏谷の名前はない(上殿河内村図に根武谷とある)が、根深山を源とする谷の左谷および右谷に大滝の絵が描かれている。

**** <https://livedoor.blogimg.jp/tombosou/imgs/f/0/f0c62ef9.jpg>



天上山 煤井谷～大草谷

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-4683709.html>

日程 2022年09月15日(木) [日帰り]

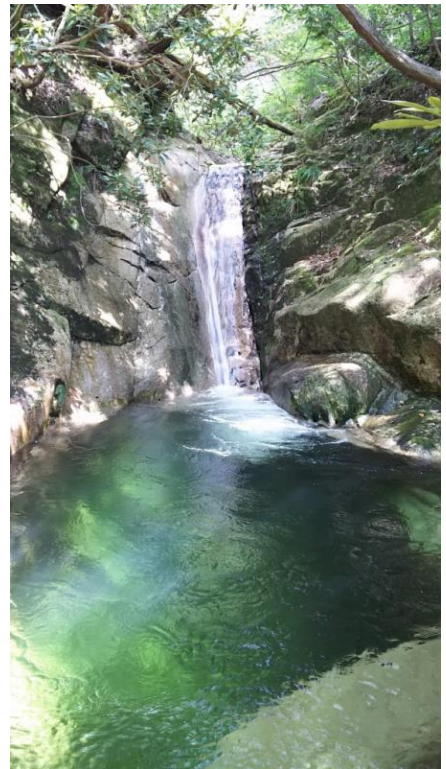
アクセス利用交通機関 車・バイク 今回は大草林道を降りてくるので、湯来方面からだと国道433号線を加計方面へ進み、県道71号線の分岐の先、国原の一松寺の駐車場を利用させてもらう。国道433号線を20分ほど戻り、最初の八幡宮の先、煤井谷橋を渡ってから右手の林道天上山線に入り、40分ほど登ると林道がカーブした所にお宮がある。お宮の右手から入渓する。(車は良い道をお宮まで入れる。)

コースタイム 日帰り 山行 7時間8分 休憩 18分 合計 7時間26分

S一松寺09:04 10:05煤井谷のお宮10:10 12:53林道天上山線12:58 13:45天上山13:48 14:28大草谷下降点の小ピーク15:25大草谷本流16:02林道大草線16:07 16:30一松寺G
コース状況／危険箇所等 煤井谷からの天上山登山道は、笹がかぶっているが、迷うところはない。
その他周辺情報 国道433号線沿いに湯の山温泉。

天上山の湯来側の登山道がある煤井谷は、初級の沢登りコースとして知られている。最初の小滝群を過ぎるとゴロ歩きが長いですが、流木が少なく、きれいなナメや淵も混じるので、気持ちよく遡行できる。

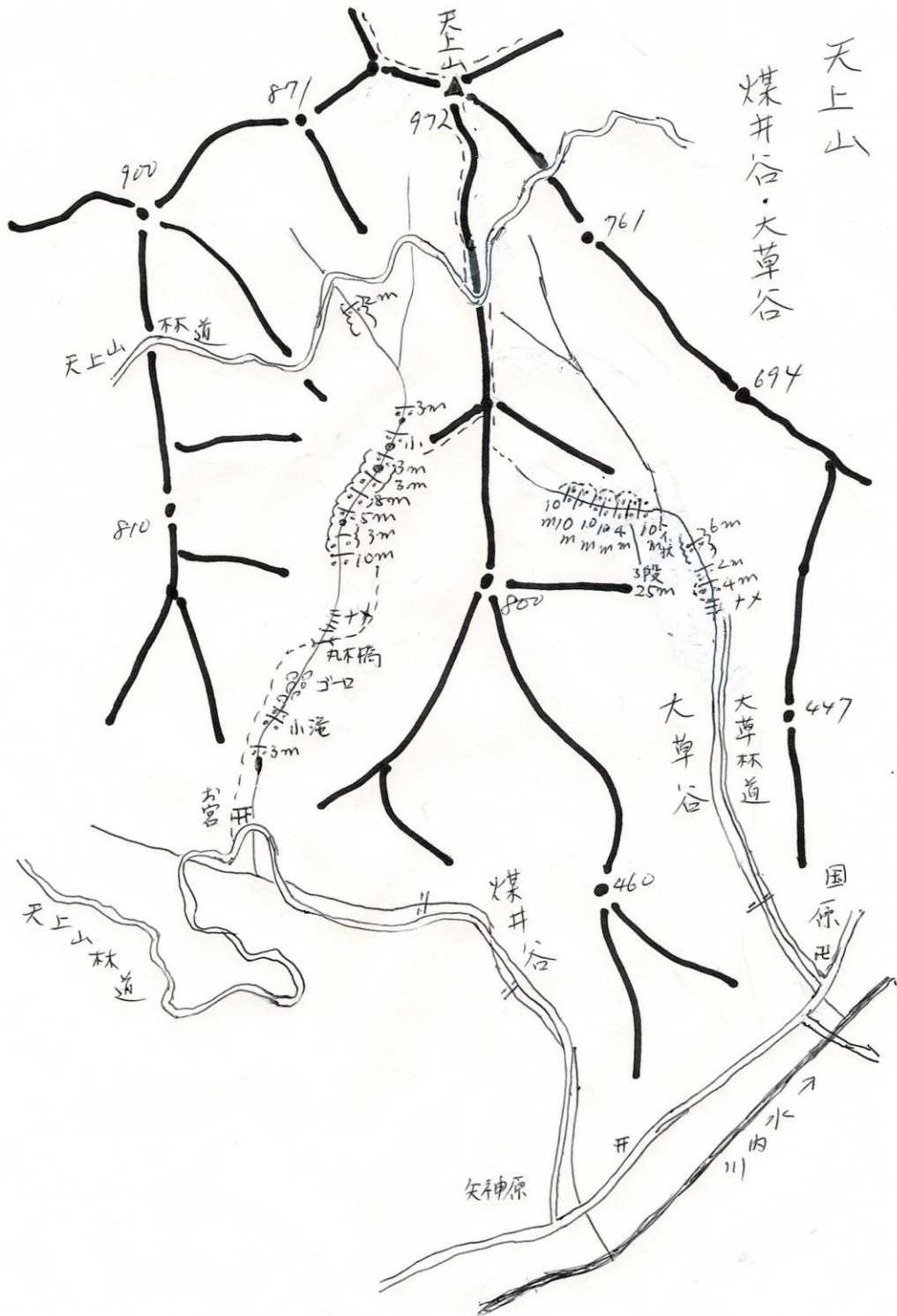
大きな滝が2本あるがいずれも直登ができる。大滝からが核心部であり、淵や滝を高巻くことなく遡行できる。今回は、煤井谷からつないで天上山に登頂し、隣の大草谷を下ってみた。大草谷は殆ど登られていないと思われるが、広島山稜会35周年記念誌「峠」の昭和35年の記録には、流れにそって丸木橋や木馬の橋をたどる。滝は数多くあるがいずれも小さく、傾斜が緩いのと水量が少ないために見るべきものはない。このコースは下山路としたほうが良い、とある。今回は、煤井谷登山道の760mピークから枝谷を下ったのだが、これが曲者で水量は少ないがスラブ状の大滝を何本もかけて悪く、下降にてこずった。「峠」の記録によれば、一本上の枝谷が楽だったようだ。本流には一か所ゴルジュがあり、美しい滝が2本見られた。きれいなナメ滝の多い谷だが、最後はゴロ口になって林道大草線に上がった。今回ついていなかったのは、アプローチの林道でメマトイが目に入って不快だったこと。何か毒のある草に触ったらしく腕がピリピリ痛いこと、下山後ズボンをはき替えていたら、ふくらはぎにタカサゴキララマダニ*が食いついていたこと、幸い簡単に取れたが、大草谷への下降の笹藪漕ぎでやられたようだ。(写真は煤井谷3m滝)



☞ 大滝10mは、少しシャワーを被るが、水流の左側を直登できる。

☞ 8m滝は、左の凹角に大きなホールド・スタンスがあり、見た目より簡単に直登できる。

* <https://www.yamareco.com/modules/diary/596888-detail-266599>



天上山 田之尻川支流 蛇の谷～鴨ヶ谷

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-5253293.html>

日程 2023年03月10日(金) [日帰り]

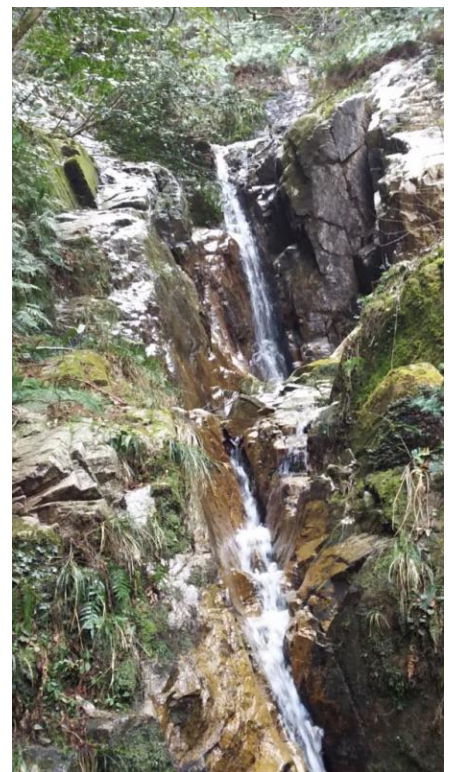
アクセス 利用交通機関 車・バイク 国道191号線より中筒賀の井仁の棚田方面に県道303号線に分かれ、田之尻集落に入ってからすぐ、大歳神社下の元小学校グラウンドに駐車

コースタイム 日帰り 山行 5時間55分 休憩 23分 合計 6時間18分

S大歳神社 09:42 10:49 蛇の谷 40m 大滝 11:02 11:02 二俣 12:40 中間尾根 12:45 13:02 鴨ヶ谷 13:53 ゴルジュ上 15:01 ゴルジュ下 15:38 鴨ヶ谷橋 15:43 16:00 大歳神社 G

コース状況／危険箇所等 一般登山道はないが、山行中に時折、赤テープを見た。下山後に土地の人に聞いた話では、蛇の谷川右岸の尾根に作業道があり、鴨ヶ谷方面までつながっているそうである

まだ3月だが4月下旬の暖かさということで、温めていた天上山域の沢登りを実行した。天上山北側の田之尻(たのしり)川の支流は流程は短いですが、地形図では中流部に等高線が詰まって狭い部分があり、興味がひかれるが、この谷の記録は見たことがない。遡上した蛇の谷は名前のとおり屈曲が多く、中流部に最大落差40mの多段大滝を隠していた。下降した鴨ヶ谷は、中流部の切り立ったゴルジュ内に大滝を擁し、予想以上に手ごわかった。水量が少ないのは、仕方ないが、残念だったのは、杉の倒木の多さで、緑の枝や花がついたものも多く、この冬の湿った大雪でやられたのではないだろうか。この倒木漕ぎには、精神、肉体とも疲れ、この山行のもう一つのポイントだった。下山して地元の方(たのしりアジサイ園の人かも)と話したのだが、杉は50年ほど前、その方が子供のころ、一本5円で植えたものだそう。もとはアカマツ林で、国策とはいえ、今ではマツタケもとれなくなり、日も当たらないとおっしゃっていた。なお、蛇の谷の名称は、砂防標識から、鴨ヶ谷は橋の名前から取った。(写真は鴨ヶ谷ゴルジュ下の2段20m滝)



☞ 蛇の谷 3段 40m の大滝。傾斜はあるが、ホールドがあり直登できた。

☞ 大滝、2段20mも直登できる。

☞ 鴨ヶ谷のゴルジュは、右岸から大高巻きで降りた。

天上山 田之尻川支流 鴨ヶ谷 再び

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-5386580.html>

日程 2023年04月21日(金) [日帰り]

アクセス 利用交通機関 車・バイク 前回同様に田之尻の大歳神社下のグラウンドに駐車したが、鴨ヶ谷橋の少し上に広い路肩帯があり、そこにも駐車可能。ただし、そこまでの集落内の県道は狭く、離合困難。

コースタイム 日帰り 山行 3時間20分 休憩 15分 合計 3時間35分

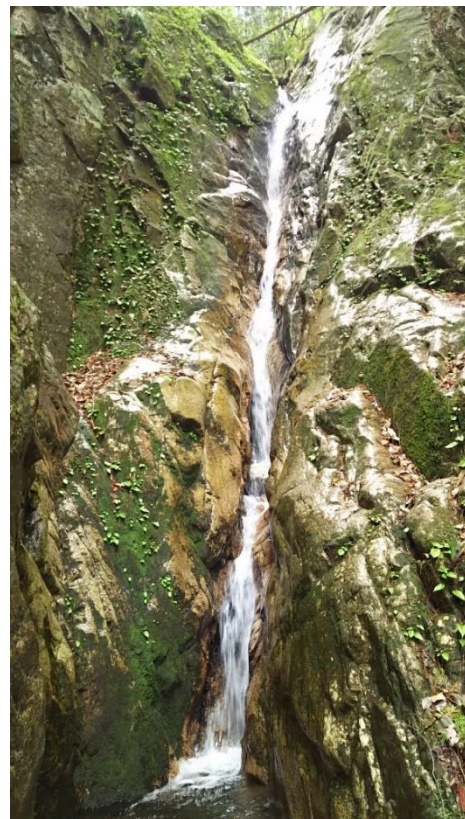
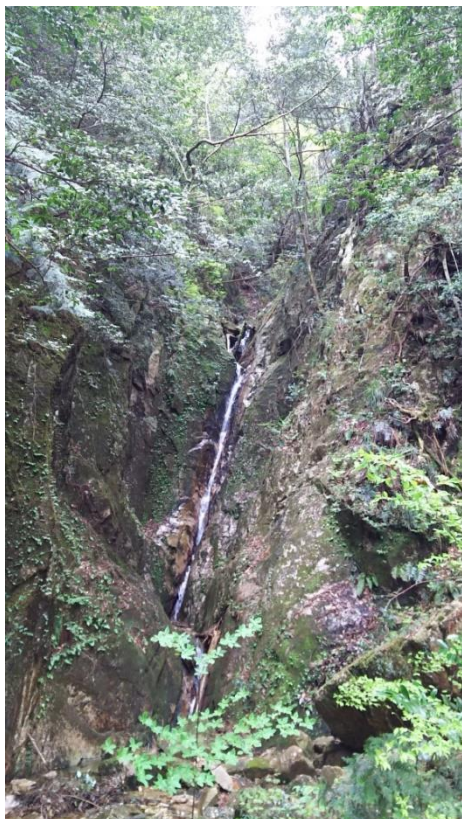
S 鴨ヶ谷橋 09:52 10:42 ゴルジュ下の滝 11:05 秘滝下 12:02 巻き上がり点 12:14 30m 滝上
12:30 脱溪点 12:45 13:27 鴨ヶ谷橋 G

コース状況／危険箇所等 下山には、鴨ヶ谷左岸の山道を利用可能。

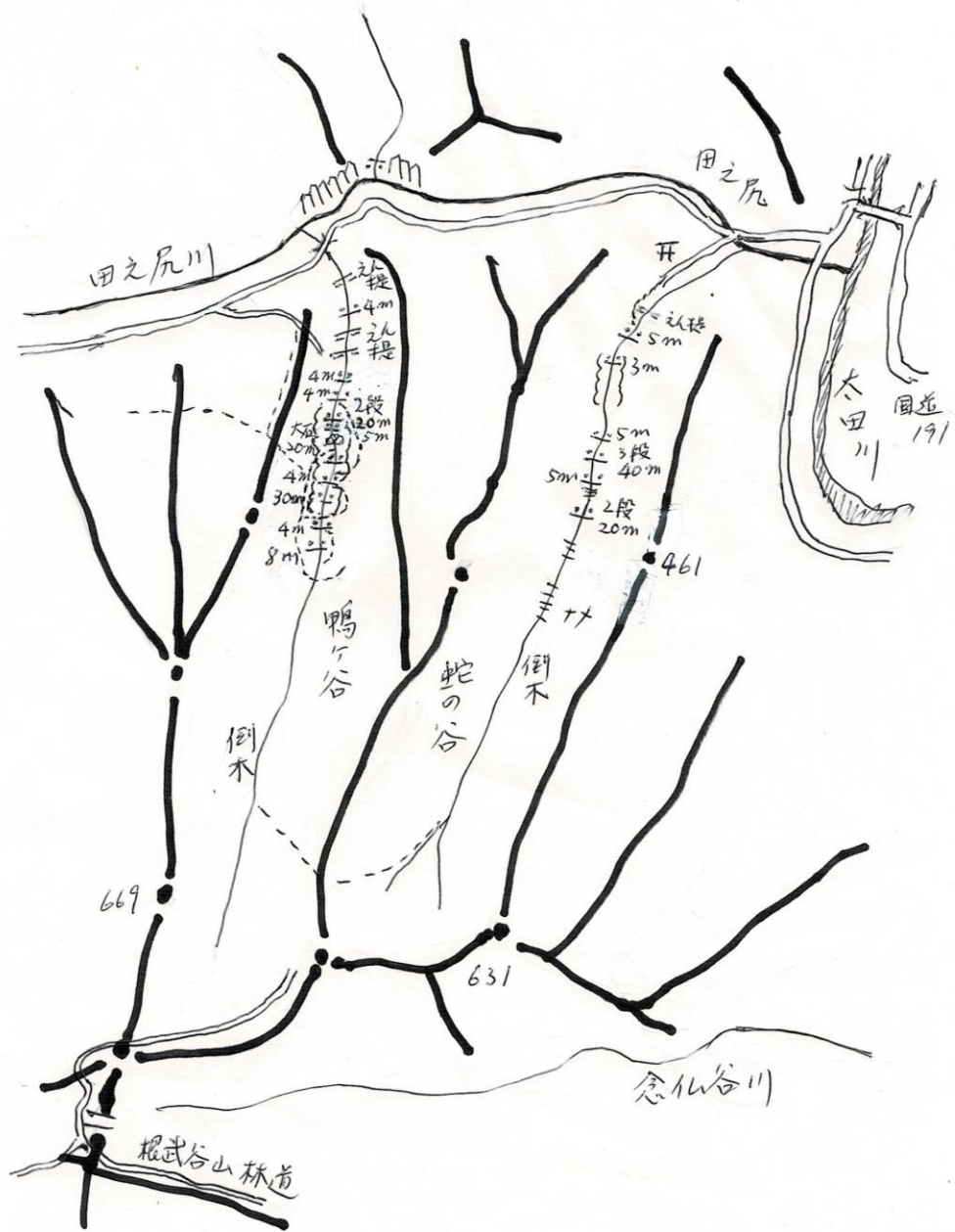
前回、田之尻川の蛇の谷を遡行し、鴨ヶ谷を下降したが、中流部ゴルジュ帯を大高巻きしてしまったため、核心部が未確認のまま残っていた。悔しいので、今回は、鴨ヶ谷を下から遡行し、核心部を探ってみた。ゴルジュ帯で行き詰ることも考え、アイスハンマーとハーケンも準備した。ゴルジュ帯入口で迎えてくれる格好の良い 3 段滝(4+4+16m)を登り、崩落した大岩群を越えると、極端に狭まったゴルジュに 20m ほどの滝が一筋水流を落としていた。まさに、秘滝と呼ぶにふさわしい美しさだった。直登はとてまかなわず、取りまいた高い岩峰をアイスハンマー頼りに左岸から悪い巻きで回り込んで越え、前回巻き降りたゴルジュ出口の 30m 滝に到達し、ゴルジュ内の様相をほぼ確認することができた。鴨ヶ谷のゴルジュは、これまで歩いてきた広島市西部の谷のなかでも 1, 2 を争う悪さと美しさであった。(写真は鴨ヶ谷ゴルジュ内の秘滝 20m)

☞ ゴルジュ入口の3段の滝、中段 4m は左は微妙に登れず、水流を登ってから、左手の岩に取りつき、左の大きなバンドに上がり、上段 16m はそのままバンドを直上した。

☞ ゴルジュ内の秘滝 20m は、左岸の木の根が伸びた狭いバンドを辿って、岩峰を回り込み巻くが、手がかり、足掛かりはコケや落ち葉で不安定で、見た目より微妙である。回りこむと、広いバンドが右手下の泥付キルンゼまで伸びていた。



天上山 田之尻川支流 蛇の谷・鴨ヶ谷



天上山 田之尻川支流 川暮谷～横泓谷(仮称)

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-5400670.html>

日程 2023年04月23日(日) [日帰り]

アクセス 利用交通機関 車・バイク 国道191号線より中筒賀の井仁の棚田方面に県道303号線に分かれ、田之尻、中ノ原集落を過ぎ、川暮橋手前の広い路肩に駐車。川暮谷左岸の取水施設のある林道をすすみ、入渓。

コースタイム 日帰り 山行 5時間6分 休憩 26分 合計 5時間32分

S 川暮橋 09:00 10:18 川暮谷二俣 11:08 乗越沢 11:18 11:39 中間尾根 11:45 12:51 横ぶけ谷本流 13:22 横ぶけ谷大滝上 14:03 田之尻川本流の大堰堤 14:13 14:32 川暮橋 G

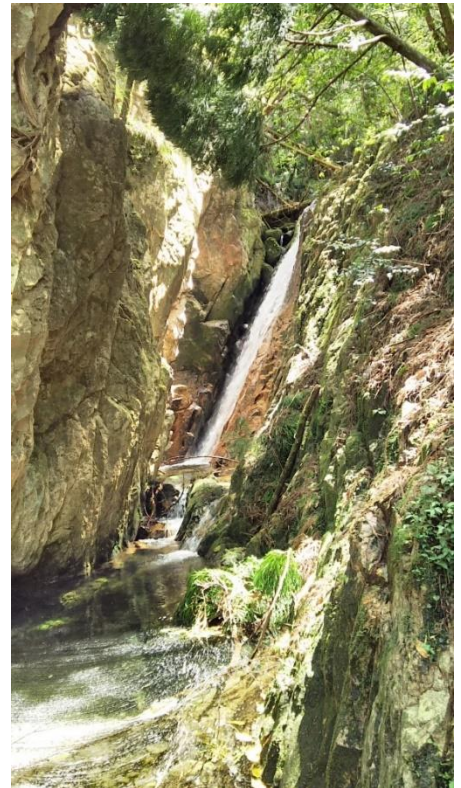
コース状況／危険箇所等 川暮谷左岸尾根には作業道を示す赤テープがあるが、下山に用いていないので、どこに降りるかは未確認。横ぶけ谷の左岸にも大滝上まで続く山道があるが、途中で、谷に降りたので、どこへ続いているかは不明。

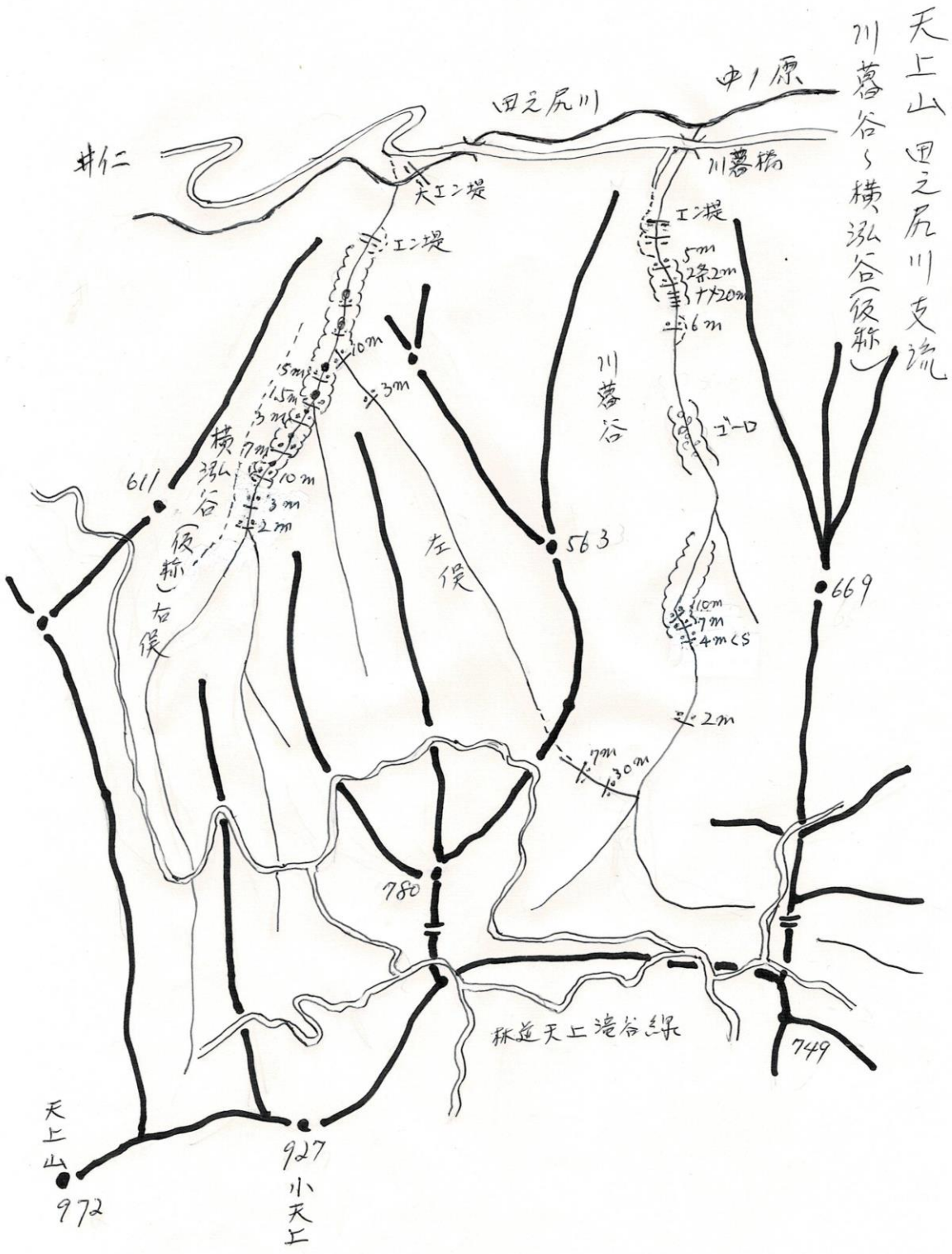
その他周辺情報 県道を上がって行くと日本の棚田100選に選ばれた井仁の棚田がある。県道303号は、田之尻集落と、井仁集落付近は1車線しかないが、中間部は2車線の良い道である。

天上山をめぐる田之尻川支流の最後として、中ノ原集落上の川暮(かわぐれ)谷を遡行し、奥二俣の枝沢を詰めて、天上山の横ぶけの森付近より流下する谷(横ぶけ谷と仮称)の左俣を下降し、横ぶけ谷本流を遡下降してきた。川暮谷は最初の堰堤の巻きがやっかいだったが、下流部と二俣上の屈曲部のゴルジュ内の滝がすばらしい。概ね右岸は植林帯、左岸には自然林が残る。横ぶけ谷の左俣は、本流出合いの滝以外はほとんど何も無い谷で下降には適していた。横ぶけ谷本流の下流部はすばらしい溪相で、ゴルジュ内に大きな淵・釜・滝が続いていた。大滝上の傾斜が緩んだ地点からは倒木も増え、平凡になったので、遡行を切り上げたため、上流部は未見である。横ぶけ谷も右岸は植林、左岸には溪畔林が残る。なお、川暮谷の名前は、橋の銘板と、下山時に田植えの準備をされていた地元の方に聞いた。横ぶけ谷は天上山の横泓(よこぶけ)の森付近を水源とするため、仮称とした。地元の方にも名前を聞いたのだが、忘れたということだった。泓には、清らかな水の流れる所という意味があるようだが、横ぶけ谷下部のすばらしい溪谷が、あまり知られていないようなのは惜しいことだ。(写真は横ぶけ谷のゴルジュの奥の10m滝)

☞川暮谷ゴルジュ内の10m滝は、右手の岩のホールドを拾って登り、傾斜が緩んだところで正面のガリーに移って登り、滝右の灌木帯に抜けた。

☞横ぶけ谷のゴルジュの奥の10m滝は、左岸の手前から斜上する細いバンドを伝って落ち口手前に抜ける。





天上山田之尻川支流
川落谷、横泓谷(仮称)